

第2章 西院地区道路特定事業の整備方針

2.1 具体的なバリアフリー化整備の方針

生活関連経路で道路の移動等円滑化整備ガイドラインを満たしていない箇所について、その対策案及び整備方法を表2.1に示します。

表2.1 対策案（A～G）及び整備方法の概要

対象項目	対策案・整備方法						
2.1.1 横断歩道接続部等	A：横断歩道接続部等における段差・勾配の改良						
	<table border="1"> <tr> <td>A-1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 横断歩道と接続する部分に平坦部を確保 すりつけのための縦断勾配を5%（8%）以下にする 歩道と車道の段差が1cmとなる縁石を設置 </td> </tr> <tr> <td>A-2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 歩道の私有地側に平坦部を確保 車道へのすりつけ勾配を小さくするために、歩道と車道の境界には、表面に勾配のある特殊縁石を設置 </td> </tr> </table> <p>※A1を適用することが困難（現況の段差・勾配が大きいうえ、私有地・車道の改良が困難）な場合には、A2を適用。</p>	A-1	<ul style="list-style-type: none"> 横断歩道と接続する部分に平坦部を確保 すりつけのための縦断勾配を5%（8%）以下にする 歩道と車道の段差が1cmとなる縁石を設置 	A-2	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の私有地側に平坦部を確保 車道へのすりつけ勾配を小さくするために、歩道と車道の境界には、表面に勾配のある特殊縁石を設置 		
A-1	<ul style="list-style-type: none"> 横断歩道と接続する部分に平坦部を確保 すりつけのための縦断勾配を5%（8%）以下にする 歩道と車道の段差が1cmとなる縁石を設置 						
A-2	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の私有地側に平坦部を確保 車道へのすりつけ勾配を小さくするために、歩道と車道の境界には、表面に勾配のある特殊縁石を設置 						
2.1.2 歩道一般部 及び車両乗入部等	B：歩道一般部及び車両乗入部における段差・勾配の改良						
	<table border="1"> <tr> <td>B-1</td> <td>横断勾配が急な箇所を1%（2%）以下にする</td> </tr> <tr> <td>B-2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 歩道内にある段差を平坦にする 歩道部の凸凹（舗装不陸、水路不陸等）を平坦にする </td> </tr> <tr> <td>B-3</td> <td>歩道の車両乗入れ部分の私有地側に平坦部を確保（すりつけ横断勾配は15%以下）</td> </tr> </table> <p>※B1・B2は歩道の一般部で用いる。また、B3は歩道の車両乗入部で用いる。</p>	B-1	横断勾配が急な箇所を1%（2%）以下にする	B-2	<ul style="list-style-type: none"> 歩道内にある段差を平坦にする 歩道部の凸凹（舗装不陸、水路不陸等）を平坦にする 	B-3	歩道の車両乗入れ部分の私有地側に平坦部を確保（すりつけ横断勾配は15%以下）
	B-1	横断勾配が急な箇所を1%（2%）以下にする					
B-2	<ul style="list-style-type: none"> 歩道内にある段差を平坦にする 歩道部の凸凹（舗装不陸、水路不陸等）を平坦にする 						
B-3	歩道の車両乗入れ部分の私有地側に平坦部を確保（すりつけ横断勾配は15%以下）						
2.1.3 視覚障害者 誘導用ブロック	C：視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良						
	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td>視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良</td> </tr> </table>	C	視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良				
C	視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良						
2.1.4 歩道の有効幅員 （歩道拡幅、支障物の撤去及び移設）	D：歩道の有効幅員確保						
	<table border="1"> <tr> <td>D-1</td> <td>道路幅員の見直しによる歩道拡幅の検討</td> </tr> <tr> <td>D-2</td> <td>支障物（電柱、標識柱等）の撤去及び移設の検討</td> </tr> </table> <p>※本対象地区では、私有地側に拡幅できる用地がない。</p>	D-1	道路幅員の見直しによる歩道拡幅の検討	D-2	支障物（電柱、標識柱等）の撤去及び移設の検討		
D-1	道路幅員の見直しによる歩道拡幅の検討						
D-2	支障物（電柱、標識柱等）の撤去及び移設の検討						
2.1.5 道路付属物等	E：歩行者の移動に影響を与えている道路付属物の改良						
	<table border="1"> <tr> <td>E</td> <td>柵蓋及びグレーチングの改良、縁石の改修</td> </tr> </table>	E	柵蓋及びグレーチングの改良、縁石の改修				
E	柵蓋及びグレーチングの改良、縁石の改修						
2.1.6 安全施設	F：安全施設の設置						
	<table border="1"> <tr> <td>F</td> <td>安全施設（車両防護柵、横断防止柵等）の設置</td> </tr> </table>	F	安全施設（車両防護柵、横断防止柵等）の設置				
F	安全施設（車両防護柵、横断防止柵等）の設置						
2.1.7 バス停留所	G：バス停留所の改良						
	<table border="1"> <tr> <td>G</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> バス乗降位置の縁石高さの検討（15cm） 視覚障害者が乗降位置を認識できるように視覚障害者誘導用ブロックを設置 </td> </tr> </table>	G	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降位置の縁石高さの検討（15cm） 視覚障害者が乗降位置を認識できるように視覚障害者誘導用ブロックを設置 				
G	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降位置の縁石高さの検討（15cm） 視覚障害者が乗降位置を認識できるように視覚障害者誘導用ブロックを設置 						

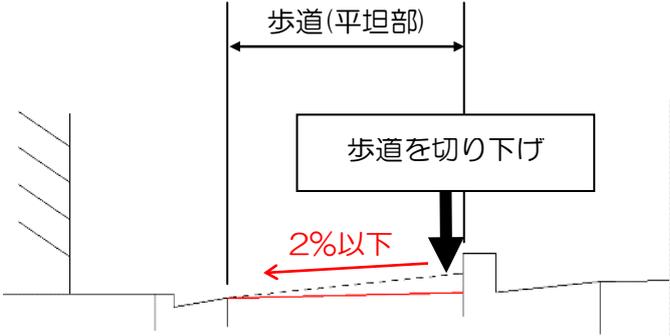
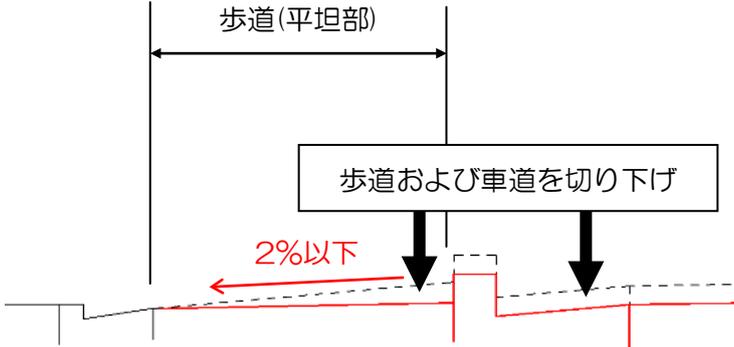
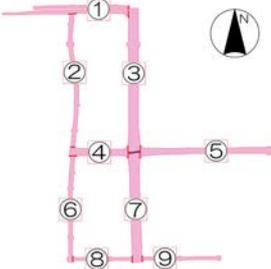
2. 1. 1 横断歩道接続部等におけるバリアフリー整備方針

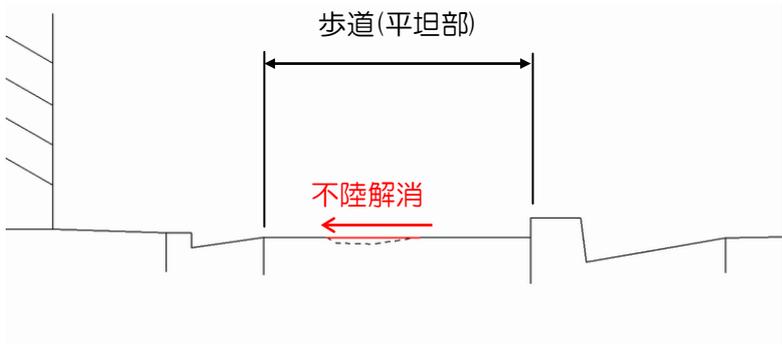
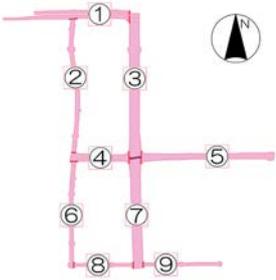
対策案	A-1
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・縦断勾配 5% (8%) 超 ※ () 内は、地形の状況その他特別な理由によりやむを得ない場合の特例値 ・横断勾配 1% (2%) 超 ※透水性舗装の場合は 1%、非透水性舗装の場合は 2% ・段差 1cm 以上
整備方法	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の改良（横断歩道接続部に平坦部を確保する） すりつけ勾配は 5%以下とする（歩車道境界は段差 1cm の縁石を用いる）
イメージ	<p>注) 本対策を行う際、民有地との境界条件を考慮する必要がある</p>
標準的な考え方	<p>・交差点縦断方向 (A-A') 断面概念図</p>
対象経路	<p>生活関連経路①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨</p>

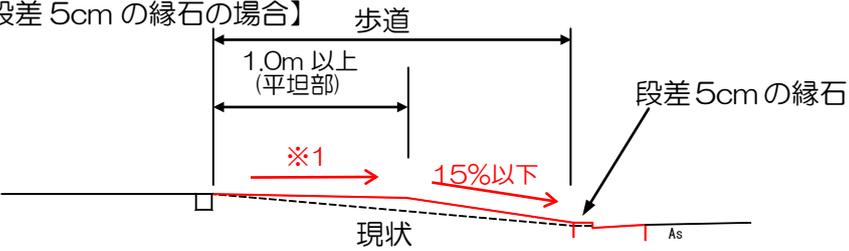
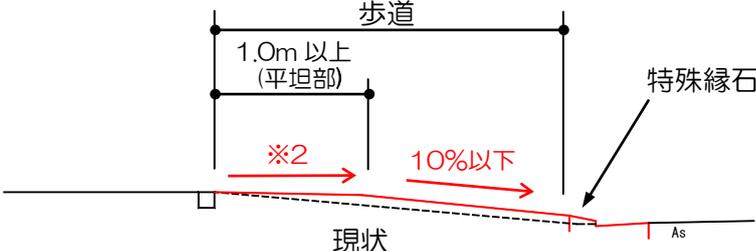
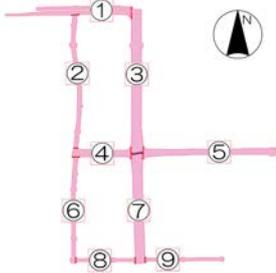
対策案	A-2
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・縦断勾配 5% (8%) 超 <ul style="list-style-type: none"> ※ () : 地形の状況その他特別な理由によりやむを得ない場合の特例値 ・横断勾配 1% (2%) 超 ※透水性舗装の場合は 1%, 非透水性舗装の場合は 2% ・段差 1cm 超
整備方法	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の改良 (横断歩道接続部に平坦部を確保できない場合は, 平坦部を民有地側に確保する) ・すりつけ勾配を小さくするため歩車道境界に特殊縁石を用いる
イメージ	
標準的な考え方	<p>・交差点縦断方向 (A-A') 断面概念図</p>
対象経路	<p>生活関連経路②, ⑥, ⑧, ⑨</p>

(注) 本対策案 A-2 は, 前項の対策案 A-1 を適用することが困難 (現況の段差・勾配が大きい上, 民有地・車道の改良が困難) な場合の改善策です。

2. 1. 2 歩道一般部及び車両乗入部等におけるバリアフリー整備方針

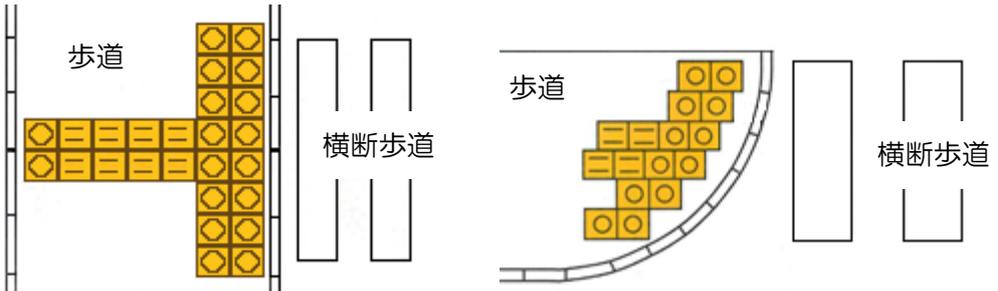
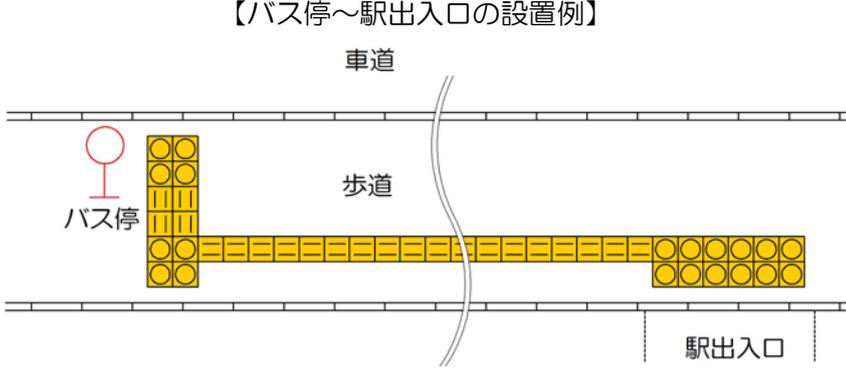
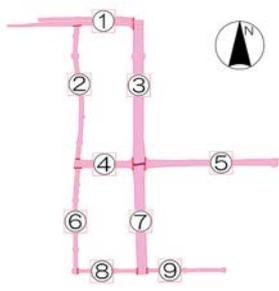
対策案	B-1
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配がきつい ・歩道が波打っていて歩きにくい
整備方法	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配が急な箇所においては、歩道に平坦部（2%以下）を確保する
イメージ	<div data-bbox="446 555 742 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 私有地高さは 現状を変えない </div> 
標準的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配が急な箇所における歩道の改良 【歩道の切り下げ】  <ul style="list-style-type: none"> 【歩道及び車道の切り下げ】（私有地と車道の高低差が大きい場合） 
対象経路	<p>生活関連経路①，②，③，④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨</p> 

対策案	B-2
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道に段差がある ・歩道が凸凹している
整備方法	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道内の段差，不陸を解消する
イメージ	<p style="text-align: center;">現況写真</p>  
標準的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・段差・不陸の解消 
対象経路	<p>生活関連経路①，②，③，④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨</p> 

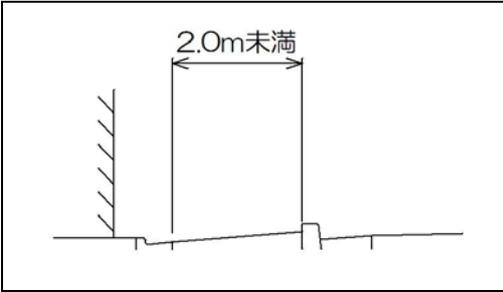
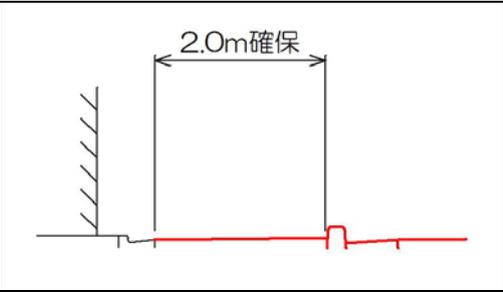
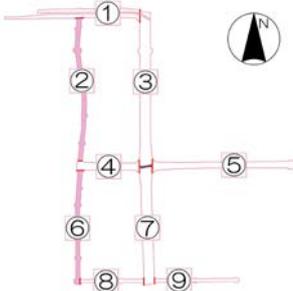
対策案	B-3
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配がきつい ・平坦部がない
整備方法	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配がきつい箇所、平坦部がない箇所において、歩道の民有地側に平坦部（透水性舗装の場合は 1%、非透水性舗装の場合は 2%）を 1.0m 以上確保する ・すりつけ勾配は 15%以下とする
イメージ	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="font-size: 2em;">⇒</div>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 現況写真 改良イメージ </div>
標準的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配が急な箇所における歩道の改良 <p>【段差 5cm の縁石の場合】</p>  <p>※1 透水性舗装の場合 1%、非透水性舗装の場合 2%</p> <p>【特殊縁石の場合】</p>  <p>※2 透水性舗装の場合 1%、非透水性舗装の場合 2%</p>
対象経路	<p>生活関連経路①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨</p> 

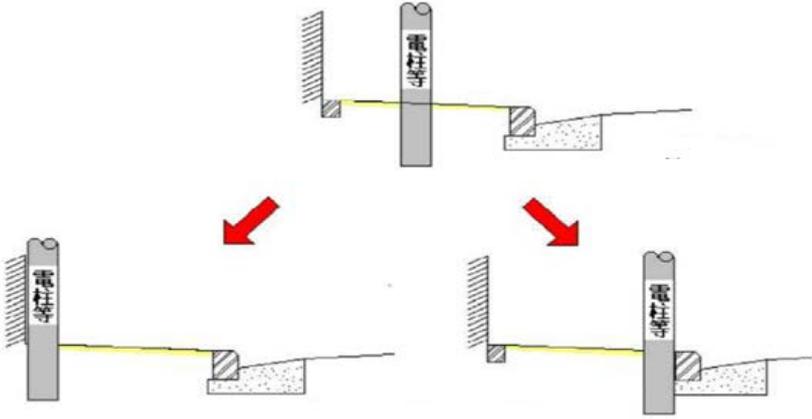
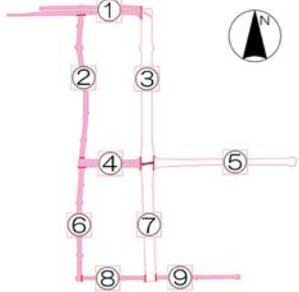
※本案は、車道面の高さが調整困難な場合に適用するものとします。

2. 1. 3 視覚障害者誘導用ブロック設置におけるバリアフリー整備方針

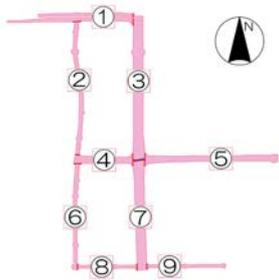
対策案	C
問題点	・歩車道境界が識別しづらい
整備方法	・視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良（JIS規格化や配置変更など）
イメージ	<p>・視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良</p>  <p>現状 → 改良イメージ（JIS規格化）</p>
標準的な考え方	<p>【横断歩道口誘導ブロックの設置例】 【歩道巻き込み部誘導ブロックの設置例】</p>  <p>注）横断歩道の有無に関わらず歩道巻き込み部には視覚障害者誘導用ブロックを設置。</p> <p>【バス停～駅出入口の設置例】</p>  <p>注）駅構内は鉄道事業者が検討。</p>
対象経路	<p>生活関連経路①，②，③，④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨</p> 

2. 1. 4 歩道の有効幅員（歩道拡幅、支障物の撤去及び移設）等におけるバリアフリー整備方針

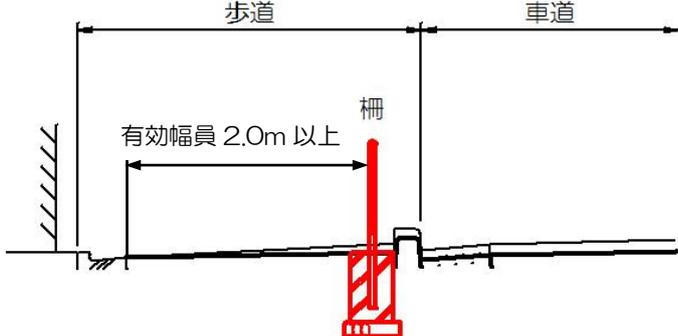
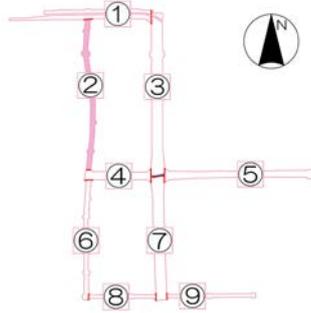
対策案	D-1
問題点	・歩道が狭い
整備方法	・安全走行ができる車道幅員を考慮した上で、歩道の有効幅員（2.0m・3.5m ^{※1} ）を確保する
イメージ	<p>・歩道の有効幅員の拡幅</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 現況 改良イメージ </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">※1 歩行者交通量 1000 人/日以上の場合 ただし、地形上やむを得ない場合を除く</p>
標準的な考え方	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 【現況】 【改良後】 </div>
対象経路	<p>生活関連経路②、⑥</p> 

対策案	D-2
問題点	・電柱や街灯等が通行の支障となっている
整備方法	・支障物（電柱，街灯等）の撤去及び移設の検討
イメージ	 <p data-bbox="874 779 959 813">【現況】</p>  <p data-bbox="858 1350 975 1384">【改良後】</p>
対象経路	<p data-bbox="405 1402 890 1435">生活関連経路①，②，④，⑥，⑧，⑨</p> 

2. 1. 5 道路付属物等設置箇所におけるバリアフリー整備方針

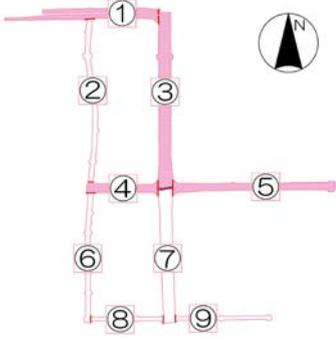
対策案	E	
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柵蓋がガタついている ・ 歩行者通行部のグレーチングの網目が粗い ・ 縁石の配置が不適切, 老朽化している 	
整備方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細目のグレーチング等へ改良 ・ 縁石の改良 	
イメージ	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 現 状 改 良 </div>	
	<p>細目グレーチングへ改良</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
イメージ	<p>縁石改良（段差及び老朽化の改良）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
	<p>生活関連経路①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨</p> <div style="text-align: right;">  </div>	

2. 1. 6 安全施設等設置におけるバリアフリー整備方針

対策案	F
問題点	・ 柵が設置されていない
整備方法	・ 車両防護柵，横断防止柵等の設置
イメージ	<p>・ 柵の設置</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  ➔  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 現状 柵の設置イメージ </div>
標準的な考え方	<p>【柵設置横断面図】</p>  <p style="text-align: center;">※有効幅員の確保を前提として，設置検討を行う。</p>
対象経路	<p>生活関連経路②</p> 

※ 上記対策案は，西院小学校前の柵のイメージです。

2. 1. 7 バス停留所におけるバリアフリー整備方針

対策案	G	
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす利用者のバスへの乗降が不便 ・乗降位置を示す視覚障害者誘導用ブロックが設置されていない 	
整備方法	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす利用者の乗降をしやすくするための検討（縁石高さ 15cm） ・視覚障害者誘導用ブロックを設置 	
イメージ	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="438 600 933 1146">  <p style="text-align: center;">縁石高さ 15cm</p> </div> <div data-bbox="933 600 1412 1146">  <p style="text-align: center;">視覚障害者誘導用ブロックの設置</p> </div> </div>	
対象経路	<p>生活関連経路①, ③, ④, ⑤</p> 	

2. 2 整備目標年次

表 2. 2 道路特定事業の概要

経路 番号	路線名	主な事業の目的	対策案	目標年次					
				H27	28	29	30	31	32~
①	一般府道 二条停車場嵐山線 (三条通) 右京税務署前～西大路通	段差・勾配の改良	A～E G						
②	一般市道 佐井通 (春日通) 三条通～四条通	段差・勾配の改良 歩道有効幅員の確保	A～F						
③	主要市道 京都環状線 (西大路通) 三条通～阪急西院駅	段差・勾配の改良	A～C E G						
④	一般府道 嵐山西院線 (四条通) 佐井通～阪急西院駅	段差・勾配の改良	A～E G						
⑤	主要市道 嵐山祇園線 (四条通) 阪急西院駅～御前通	段差・勾配の改良	A～C E G						
⑥	一般市道 佐井通 (春日通) 四条通～高辻通	段差・勾配の改良 歩道有効幅員の確保	A～E						
⑦	主要市道 京都環状線 (西大路通) 阪急西院駅～高辻通	段差・勾配の改良	A～C E						
⑧	一般市道 高辻通 佐井通～西大路通	段差・勾配の改良	A～E						
⑨	一般市道 高辻通 西大路通～天神道	段差・勾配の改良	A～E						

上表の整備目標年次は、現時点での目標を示していますが、今後の財政状況や事業の進捗状況により変更することがあります。